

前 橋 文 化

# 比刀祢

67号



# —もくじ—

## 巻頭言

### 芸術文化でつながる社会

前橋市教育委員会 教育長 吉川 真由美

## 特別寄稿

### 山上碑の思い出

株式会社ヤマト 代表取締役社長執行役員 町田 豊

### 前橋の夢を紡ぐ場所

赤城フーズ株式会社 代表取締役社長 遠山 昌子

## 協会活動

### ◆第43回前橋市民芸術文化祭

### ◆「石川橋」の揮毫について

### ◆前橋市文化協会創立40周年記念プレ事業「短歌・俳句・川柳作品展」入選作品

## ふれあい体験事業

「連句・俳句」「令和3年度ふれあい体験教室開催予定」

## 部会・支部だより

書道／美術／写真／映像／茶道／華道／音楽／バレエ／邦楽／大正琴／日本舞踊／吟剣詩舞道  
民謡民舞／八木節／郷土芸能／歴史／短歌／俳句／川柳／漢詩／演劇／自然趣味／民族舞踊／居合道  
将棋／日本の名曲を踊る／大胡支部／粕川支部／富士見支部

### ☆令和2年度役員等名簿

### ☆令和2年度賛助会員名簿

### ☆令和3年度第44回前橋市民芸術文化祭開催予定一覧

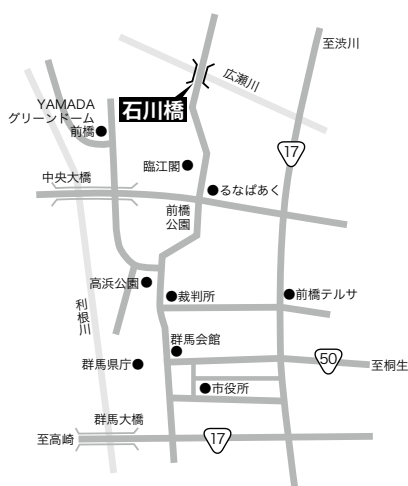
### ☆前橋市文化協会創立40周年記念のつどい・お知らせ・新入会員紹介・事務局だより・編集後記・比刀衿編集委員

## 表紙説明

前橋市大手町の臨江閣近くの廣瀬川に架かる「石川橋」は70年ぶりに改修されました。市の依頼を受け橋名を揮毫させていただきました。

新橋は昔の雰囲気や踏襲し、親柱は天然石が使用され、その4つの柱に「石川橋」「廣瀬川」などの文字が刻まれました。

大井美津江



## 「比刀衿」のいわれ

「都よりかへりくるまの里人は、ひとねがはをば渡らざらなむ」(夫木和歌抄) 今の利根川の流れに対し、元の流れすなわち、今の広瀬川を「比刀衿川」といった。この流れは前橋文化の源流ともいえよう。いよいよの発展を願ひ名付ける。

(昭和57年3月1日発行「比刀衿」創刊号より)

## 表紙「石川橋」

撮影：前橋市役所 市政発信課  
表紙説明：書道部会 大井美津江

昨年の4月、新型コロナウイルス感染症拡大の最中に、前橋市教育委員会教育長に就任しました。人と人が触れ合いながら成長を支える教育現場にとっても、長期間にわたる休校や、

様々な学校行事の中止など、実に試練の多い一年となりました。

絵や書、そして音楽などには、一般市民である私も大いに励まされました。変化する社会を時に鋭く、時に優しく切り取る言葉や詩に前を向く勇気もいただきました。

けれど」と前置きしながら、その柔軟な発想力に感嘆いたしました。茶道のオンライン講座では、だんだんがちな家の中で、しばし背筋が伸びました。身近にある文化や歴史に触れ、制約

私の長女は、ふるさとの前橋を離れ、仕事場の人以外、誰も知らない土地で暮らし始めました。今どきの若者ですから、オンラインでつながることはできます。でも、人の温かさが感じられない

いわれるように

## 芸術文化でつながる社会



前橋市教育委員会 教育長 吉川 真由美

一方で、芸術や文化が持つ力に心動かされた一年でもありました。

また、展覧会をウェブサ

のあるコロナ禍だからこそ、

る、リアルなつながりを持

の皆さまとともに、芸術文

イトで開催し、ご自身の作品を広く知ってもらう機会

私も新しい発見ができたのだと感じています。

ちたかったのでしょうか。小さいころから歌うことが大

化を愛する人の輪を広げていけたらと思っております。

オンラインで見た時には、自然と涙がこぼれました。医療に従事する皆さまへの応援の気持ちが込められた、

として捉え、新しい方法にチャレンジをしている方もいらっしやいました。「決して、ITなどに強くない

芸術や文化を愛する気持ちばかりでなく、新たな出会いをもたらしてくれます。

ちは、個人の中で完結するばかりでなく、新たな出会いをもたらししてくれます。

た彼女は、再度、合唱を始めることにしました。感染に気を遣い、大声で歌うこ

前橋市文化協会  
はありますが、  
ます。まだ制約

# 山上碑の思い出



株式会社ヤマト

代表取締役社長執行役員

町田 豊

高僧は、自分が大寺院の僧侶に出世したため、母を供養するとともに、自らの存在を後世に伝えるために碑を建てたと考えられています。

山上碑の隣には、直径約15メートルの山上古墳があります。この古墳には石室があり、子どもの頃に中に入って遊んだ記憶があります。よく親しんだ古墳は、山上碑が建てられた同時期のものだと知り、大変驚きました。群馬は古墳の数が全国的にも多いのですが、身近に貴重な文化財があることを誇らしく思います。私にとって、文化の維持、継承の大切さを改めて考えるきっかけとなったのが、上野三碑の山上碑です。

高崎市の上野三碑は、平

成29年10月にユネスコの

「世界の記憶」に登録され

ました。当社では、歴史や

文化を紹介するお客様向け

の季刊誌「和」 s Y A M

A T O」を発行しており、

平成29年春号では、上野三

碑を取り上げました。

既にご承知かと思いますが、

が、上野三碑とは山上碑、

多胡碑、金井沢碑で、約1、

300年前の7世紀頃に建

てられました。当時、朝鮮

半島では中国を起源とする

漢字文化の影響を受けた石

碑文化が発達し、奈良や飛

鳥の都にも伝来していまし

た。こうした石碑は、日本

に18例しか存在しないそう

で、上野三碑は、最古のも

のだそうです。大陸から渡

来した石碑文化が、都から

遠く離れた関東地方に伝

わっていたことを示してい

ます。

私は、山上碑のすぐ近く

の出身で、子どもの頃は、

山上碑の周辺を遊び場にし

ていました。子どもの頃は、

遊び場の近くにある石碑が、

世界的にも貴重な文化財で

あることなどまったく知ら

ないでいました。三碑の中

でも最も古い西暦681年

に造られたことも、大人に

なってから知りました。碑

文の文字は、地元の人々に

よって刻まれたということ

で、感慨深いものがありま

す。

山上碑の碑文は、漢字を

日本語（やまとことば）に

合わせて並べており、日本

語の完全な形で現存する最

古の碑文です。漢文の語順

は日本語読みと異なるので、

日本語読みをするのは読み

づらいですが、山上碑の文

は文頭から語順のまま読む

ことで内容が把握できます。

碑文には、放光寺（ほうこ

うじ・前橋市総社町にあつ

た寺で、東国有数の大寺院

の高僧が、母のために文字

を刻んだと書かれています。

## 前橋の夢を紡ぐ場所



赤城フーズ株式会社

代表取締役社長

遠山 昌子

「宝塚」という夢を叶えることができた私と芸との繋がり、前橋市民文化会館（昌賢学園まえばしホール）をなくして語ることはできません。

袖、暗い視界がパーっと明るくなるスポットライト、そして客席からの拍手…。それらの経験が、宝塚歌劇の夢へと繋がる最初の一步となりました。

で宝塚歌劇の舞台を観たのも、市民文化会館です。平成3年に宝塚の地方公演が前橋にやって来ました。宝塚の代名詞とも言える「ベルサイユのばら」で。あの日の感動は今でも鮮明に覚えています。客席に座った

がなければ、今の私はなかったかも知れません。この次に宝塚が前橋の地にやって来たのは、私が宝塚を退団した後になる平成19年だったことを考えると、あの日が私にとって「運命の時」でした。

直派若柳流2代目若柳吉駒師匠に3歳で弟子入りし日本舞踊を習っていました。年に一度の美登利会の発表会の会場は市民文化会館。それが私の芸の原風景です。

小学校では合唱に夢中になり、合唱コンクールの金賞を目指して練習に励みました。そのコンクールの会場も市民文化会館でした。

最後の衝撃、観劇後の例えようもない高揚感…。宝塚という世界にどっぷりとはまった瞬間でした。あの日

表会や高校時代のミュージカルの定期演奏会など、市民文化会館には語り尽くせない程の思い出が詰まっています。

化粧、髪と衣装、薄暗い舞台

悔し涙も嬉しい涙も市民文化会館で流しました。

そして生まれて初めて生

場所でも在り続けてもらいたいと心から願っています。

私と同じように、市民文化会館で多くの思い出を作った方々が、前橋には沢山いらつしやることでしよう。そしてそこから夢を見つけた方々も沢山いらつしやるのではないのでしょうか。

我が家では次の世代へとバトンタッチし、今度は私の娘たちが市民文化会館のお世話になっています。

数年前の耐震工事を経て、また更に次の時代へと繋がった市民文化会館。群馬県民会館（ベイシア文化ホール）が存廃に揺れている今、市民文化会館には、これからも前橋の文化の中心として、末永く夢を紡ぐ場所として在り続けてもらいたいと心から願っています。

世界中を震撼させている新型コロナウイルス感染症は、未だに終息していない状況が続いています。4月には緊急事態宣言が発令され、5月には解除されましたが、その間、県・市からの外出自粛、施設の使用停止等の措置に伴い、各施設も臨時休館となりました。

また、解除後も県「社会経済活動再開に向けたガイドライン」に基づき各施設には制限があり、文化活動も制約を受けている状況です。各部会も活動の模索が続き、再開もなかなか難しい部会もあります。

令和2年度第43回前橋市



民芸術文化祭は、全23事業の発表が予定されていましたが、20事業が中止され、『自然趣味盆栽展』『俳句作品展』『仏像彫刻と絵画展』の3事業だけの開催となりました。また、紙上発表となった事業もありました。それぞれ、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を取りながらの開催でした。開催した3部会では、会員の方々が来場者への対応を丁寧によくやつてくださいました。また、発表会までの準備や当日の運営等を入念に検討し、自主的に行っていたいただきました。例年と異なり、緊張感を伴った発表だったと思います。



## 第43回 前橋市民芸術文化祭



ですが、長い時間をかけて、高めてきた文化や伝統をさらに継続してつないでいく様子が感じられたり、ふれあい体験事業を同時に開催したりするなど、多くの方々にその魅力を発信することができたと思います。参加者と来場者の合計は、約1,520人でした。

また、『仏像彫刻と絵画展』では、本年度、新しく入会した会員の皆さんによる絵画等もたくさん展示され、作品を通して、市民の方々に潤いと安らぎを伝え、素晴らしいひと時となりました。各部会長さんをはじめ、会員の皆様のご協力に心よ



り感謝申し上げます。

「Withコロナ時代」や「ニューノーマル」とされる新たな生活様式を手探りする状態が続いており、私たちは今、先の見えない不安とともにいます。文化活動は、人が人らしく生きる上で欠くことのできないものであります。そして、表現の喜びや豊かな情操等を養い高め、重要な役割を担っています。また、活動や発表の仕方を模索中の状況ですが、来年度の前橋市民芸術文化祭は、新型コロナウイルスとの共存の先にある、新たな形で力強くより豊かに輝くことを願っています。

# 「石川橋」の揮毫について

令和2年4月6日（月）、市役所市街地整備課工務係、八木秀樹課長補佐様から当文化協会事務局へ石川橋の揮毫について依頼があり、書道部会長の大井美津江先生にご揮毫いただきました。

4月22日（水）、市街地整備課工務係のお取り計らいにより視察が行われました。向かった先は、移設さ



れた旧石川橋、工事が進められている新石川橋、新石川橋の親柱と高欄に使われる石材の加工が行われている石材会社の工場でした。

旧石川橋の親柱と高欄は、臨江閣と「るなばあく」を結ぶトンネルの上部に原形のまま移設保存されていました。また、新石川橋の工事現場では、拡幅された橋



の様子がよく分かりました。さらに、石材会社の工場では、中国から海上輸送されて間もない石材を拝見しました。揮毫のイメージを思い描いていらつしやったのでしょうか、大井先生は、親柱の石材をじつとご覧になっていました。

5月11日（月）、笠間良一都市計画部長様、飯塚佳



雄市街地整備課長様、清水

和夫前橋市文化協会長の同席のもと、大井先生から山本龍前橋市長様へ揮毫された作品を直接お渡しする場が設けられました。このときの様子は、前橋市ホームページ「ようこそ市長室へ『フォトレポート』」にも掲載されました。

新しい石川橋は7月末に竣工し、四角に設置された親柱には、大井先生が揮毫された「石川橋」「いしかわはし」「廣瀬川」「令和二年七月竣工」の文字が深く

刻み込まれています。

この度、歴史ある石川橋の揮毫につきましてご依頼いただきましたことは、文化を通じた貢献を推進していく上で当文化協会にとりまして大変貴重な機会となりました。

結びに、あらためて、山本市長様はじめ、お世話になりました関係の皆様により感謝申し上げます。



## 「短歌・俳句・川柳作品展」入選作品

前橋市文化協会創立40周年記念プレ事業「短歌・俳句・川柳作品展」を紙上開催します。本作品展は、文化活動に親しみ、文化活動の魅力にふれる機会として、また、当文化協会の活動や会報『比刀祢』について一人でも多くの皆様を知っていただく機会として企画しました。作品募集につきましては、市広報や当文化協会HP、チラシなどをおしてご案内しましたところ、小学校1年生から90代の方まで世代を超えてたくさんの方からご応募をいただきました。ここに、皆様からお寄せいただきました作品を入選作品として掲載いたします。

### 短歌

#### 【小学生の部】

ざわざわと話し始める紅葉の木風に  
あおられ散りゆく子たち

美細津 慈

たのしみは夜ねて夢のおく深く  
何も気にせず波になる時

大月 立琉

秋の空ふきぬける風前が  
みがなびいてとんだ紅葉一枚

藤枝 伶風

真つ茶色落ち葉が  
ヒラヒラふつてきて桜が  
ゆつくりころもがえする

大澤 蒼波

歴史ある臨江閣のひかり  
見てぼくの心もイルミネーション

中島 大翔

夕日あびメダルのように  
かがやいて木の葉  
ひらひらまいながら散る

岩下 まき

#### 【中学生の部】

日を浴びて眠気に抗い空見れば  
新たな一日ここに始まり

山田 梗寛

おい動け！あと五メートル  
ちぢまぬ差動かぬ足は意志に反して

田島 知修

#### 【一般の部】

稔り穂のためたふ中へ連れ立ちぬ  
夕暮方の景と同化す

新井 和夫

川の面をやさしく撫でる秋風は  
歩くわたしのかかとくすぐる

木下 美樹枝

何処も出ず自粛自粛のこの時期に  
友と飛び切りランチの至福

久保田 桂子

吸はされし色水に染まる青き  
薔薇花舗のガラスの奥に咲きゐる

岡田 正子

おぼろなる記憶に歩む香煎を  
水車に挽きし母のふる里

松村 照子

中古買ひ四十年を経し家の柱に  
残る子らの身長

平山 勇

家系図は嘘と誇張の極みなり  
名家でもあり名家でもなし

三木松平十八代子孫

病室の義父が託せし御先祖の  
霊位できたり初彼岸むかふ

須永 正江

ブランコの下の小さな水溜まり秋空を翔ぶ童女のわたし

内田 久江

記事よみて流行病の怖しきひとりひとりの意識正しく

佐藤 弥生

十メートル歩ける事が夢なりし乙武洋匡さんは汗して挑む

志田 貴志生

四月より機影も音も絶えてなお九月の空をコロナ禍に見つ

秋山 充利

淋しいと思えば淋し過疎の夜を短歌を詠んで静かに然える

新井 保子

白米を毎日食すこの平和あの戦争の過去忘れまじ

奈良 博吉

自粛して家居に暮し本棚の寂聴源氏の世界に飛びぬ

高橋 三枝

コロナ禍に顔三分の二マスク着け今日は外出眉太く描く

神垣 孝江

夏野菜食して越せた暑い夏地に感謝をし秋種を蒔く

阿久津 光枝

真つすぐに誠みつめて歩むべし災難あれど振り払いつつ

浅田 礼子

ウイルス禍にマスク手放せぬ日の長し眉を引きたり紅はささねど

福本 敬子

濡らしたる十勝新聞につつまれて友より届く太きアスパラ

岡 英子

青芝によちよち歩きの子を連れて一步にえがお転んで笑顔

山口 百合子

垂乳根の母を思えば今更に時の背中で後悔頻

久保田 保

二歳児の運動会の様話す娘はすでに親バカのうち

吉沢 克枝

段差なき小型のバスは古い人の着席待ちてゆるり発車す

松下 昭代

秋が好きさう思つてゐた残されてひとり眺むる入り日寂しき

鵜野 敏子

わが庭にマーガレットの咲き盛り夕景きのふとかはりて見ゆる

神原 みさ子

秋風にコスモスいつせいに揺れはじめもつとも似合ひの風情かもして

平田 經子

親燕子供の騾旅仕度飛ぶ距離みせて後に続けと

小畑 吉克

誰か呼ぶけはひに後ろ振り向けば花水木の紅葉音なく散りぬ

仲野 富子

店先に季の花並び咲きさかる忘れし花名今また聞きぬ

長谷川 ゆき江

コロナ禍の恐怖の日日に祈りゐる令和二年よ安泰なれと

佐々木 たえこ

赤城山熊谷あたりに見えるとふ都会住み娘は週末帰る

青木 静子

刈り終へし田の稲藁を焼く煙身にまつはりて喉痛みくる

須田 はつ枝

新盆に魂のせてやつてきたゲンジボタルが仏壇へ行く

金子 歩美

## 「小学生の部」

くり食べて家庭は笑顔の集会所  
 ともだちとさくせんせいこうオンブバッタ  
 紅の果てに待つは白い世界  
 月の下田畑にひびく虫の声  
 手のひらにいちようの葉っぱ舞い降りた  
 コロナ禍のマスクの下に笑顔あり  
 いちようの葉ひらひら飛んで夕焼けへ  
 紅色の散って色どる帰り道  
 柿の実が地面に落ちてつぶれてる  
 秋深し光り輝く星月夜  
 日はしずむオレンジ色の秋の海  
 秋晴れの朝に外出て深呼吸  
 山の中赤い紅葉が光ってる  
 あの空に真つ赤な夕日きれいだな  
 秋風にいねがふかれてだいほうさく  
 かぜふいて秋の風鈴なりひびく  
 かぜがふきすすきがおどるきれいだな  
 秋空を見上げてみれば青空が  
 栗ごはん家族みんなでかこんでる  
 飛んでいる空いっぱいに赤蜻蛉  
 紅葉がね空をひらひら落ちていく  
 風にゆれ秋のふうりんなりひびく  
 どんぐりがぼうしをかぶって散歩する  
 紅葉の葉夕日とともにまいおちる  
 青い空いわしの群れがとんでいる

萩原 冴理  
 さかもとよしと  
 須田 琥太郎  
 田中 裕基  
 木原 愛菜  
 佐野 寅次郎  
 関坂 晴貴  
 西元 心陽  
 田村 珠葵  
 小林 兼太朗  
 吉原 苺珈  
 新井 風佑夏  
 大崎 奏太朗  
 大野 瑠華  
 小倉 梨佑  
 楠元 すすね  
 久世 堅太  
 清水 琉生  
 瀬戸川 心香  
 田中心 音  
 前原 七色  
 前原 光李  
 真隅田 愛翼  
 町田 琥鉄  
 松尾 優成

秋の外すずしい風がやってくる  
 よるになりがっきのようにむしのこえ  
 どんぐりを拾うと秋を感じるね  
 かきみのり赤やオレンジうつくしい  
 秋風がふきぬけていく夕暮れか  
 紅葉の葉夕日の赤に色めいて  
 天の川星がいっぱいきれいだな  
 コスモスに夕日がさしてキラキラと  
 夕暮れが山に重なりひかっている  
 秋の空あかとんぼがねあそんでる  
 稲刈りの季節がきたら冬支度  
 十五夜望月を見てお月さま  
 風もなし紅葉おちる山の道  
 天の川秋の夜空にかかりけり  
 虫の声合唱している鈴虫が  
 秋の夜を見あげてみれば流れ星  
 たん生日成長つげる墓参り  
 あかとんぼみんなでおよぐ秋の空  
 おうごんにかがやくいねはおいしそう  
 秋の空雲の形が紅葉だよ  
 秋の空夕日が照らす黄金色  
 あかとんぼだいたい色の空を飛ぶ  
 お月見よ月のかがやき目にやきつけ  
 秋風にゆれてる稲は黄金色  
 秋風や運ぶ赤城のかおりかぐ  
 大好きではなれられない掛け布団  
 秋の気配つめたい空気赤トンボ  
 草花が風にゆられる帰り道

松村 宗汰  
 松村 春人  
 宮田 愛菜  
 横堀 愛空  
 吉村 幸太郎  
 六本木 紅葉  
 和田 悠里  
 井上 稜久  
 大澤 一咲  
 大野 結依  
 荻原 沙弥  
 金子 れいり  
 北爪 ひびき  
 木村 陸人  
 久世 和詩  
 久世 陸斗  
 齋藤 秋華  
 田中 絢萌  
 中村 りん  
 にわ まりあ  
 深津 佳志  
 前原 ほの花  
 宮田 望々華  
 矢島 愛理  
 藤枝 伶風  
 渡邊 翔真  
 湯本 尊耶  
 石平 栄太

ターザンロープ葉なびく秋の暖かさ  
 渡り鳥ぼくも中学渡る時  
 もみじ狩りまだ緑だねおばあちゃん  
 木の葉たちパラパラ落ちて冬準備  
 秋の風サラサラ葉たちさらってく  
 朝日受け鼻がつーんと金木屋  
 秋の空落葉たちの運動会  
 登校中いちょうを運ぶヒューヒューヒュー  
 のぼりぼう草木感じる秋の風  
 秋の朝げんかんそうじ落ち葉だけ  
 ランドセルパーカー詰めて秋背負う  
 秋の空遠く感じ雲じゅうたん  
 秋の夜ピカツと光る一等星  
 すべり台夕日を見つめる赤とんぼ  
 もみじの葉風がとどける知らせかな  
 ひがんな花夏の火花を思い出す  
 月明かり紅葉照らし顔隠す  
 肌寒く赤く燃えてる彼岸花  
 赤黄色落ちてる葉っぱで秋の池  
 秋の朝紅葉ながめあくびする  
 秋の夜雨の音なる宿題中  
 紅葉が赤く色つき美しい  
 ミンミンゼミ紅葉できたら行方不明  
 登下校キンモクセイの香りかな  
 写真機に残った秋のプレゼント  
 夕焼けにまつ赤に燃えてる彼岸花  
 秋の夜スズムシたちのコンサート  
 赤城山雲のぼうしをかぶる秋

館野陽南 後藤旬穂 室田結芽 谷本麻璃沙 佐藤佳奈恵 斉藤みい 室田晴菜 塩野竜基 吉田悠真 青木夢真 鈴木南音 曾根朱莉 石橋菜帆 小林若葉 岩下悠斗 鈴木翔太 宇田心星 染矢侑月 高田花凜 伊藤汰央 糸井稀風 登丸真翔 角田健心 岩田夏虹 森田涼紗 毛塚竣哉 加藤蒼葉 梶澤智紀

太陽の明るい光と風さらさ  
 秋寒し休む間もなく雨が降る  
 秋おそし暖気が残る青もみじ  
 風の声季節の知らせキンモクセイ  
 秋探しぼうしの上に赤もみじ  
 夕方に空見上げればもえる海  
 マーチングきれいにそまったもみじたち  
 秋の葉にえのぐをぬってかざりつけ  
 秋の雨空泣きやまずかさぬれる  
 いがいがの中から顔出し食べ頃だ  
 いねかりを朝からがんばる家族達  
 秋の日の朝はおしるこ夜みそしる  
 玄関でニヒツと笑うパンプキン  
 ドア開けてえいぎょうがんばる六年生  
 げんかんに入って行くのはもみじの葉  
 登校中風になびいた彼岸花  
 秋風が運ぶ音色はマーチング  
 もみじさき心はなやか笑顔さく  
 浅間山まだらに雪でけしようにして  
 むしのこえしずかなよるのおんがくかい  
 春きたらお花見だよねわいわいと  
 さむいふゆみそしるのんであたたまる  
 寒い冬雪がつもって楽しいな  
 花びらがひらひらおちるさくらの木  
 さむいふゆこたつはいればあたたかい  
 紅葉がとても深まりきれいだね  
 チュンチュンと秋を知らせるすずめかな  
 どんぐりは秋を感じる実の中だ

高柳柚花 坂本岳登 林豪流 家住愛菜 青木麗々愛 石松大知 松嶋真秀 磯田拓志 渡邊虎汰郎 不動友結 毛塚智哉 山田将獅 山田小春 松浦斗真 根岸昊輝 大野紗椰 峯岸優衣 石内大雅 登坂康仁 おくのまや 石いたける 石いたける 岩崎愛歩 牛込彩都姫 植杉ゆいな 小暮美胡 小林真聡 坂本心和

アキアカネみずばにいるよつかまえた  
 雪がふるふさふさしてるつめたいな  
 冬の風音ひびかせて追いかける  
 木の葉っぱつぎつぎおちて冬がくる  
 かき氷シャリシャリおいしいね  
 冬だ冬おいしいみかん食べようよ  
 見上げればトンボがまうよ秋の空  
 冬の家こたつに入ってみかん食べ  
 さつまいもやいて食べたい寒い日に  
 春の日の鳥のさえずり川の音  
 子どもたちたくさんちらばるもみじの葉  
 サッカーのわかばカップは秋にある  
 かたつむりあじさいの葉で遊んでる  
 もみじの木色づくもみじはなやかに  
 色づいてもみじの葉っぱもこいもよう  
 おいしいな秋はやっぱりくりご飯  
 秋になるきれいなもみじ美しい  
 秋生まれ今日はお母さんのたん生日  
 色づく葉茶色黄色いろいろだ  
 七五三きものはどれにしようかな  
 十月は子どもよろこぶハロウィンだ  
 お月見はともきれいだまん丸だ  
 もみじがさ赤くきれいに光ってる  
 七五三こんな大きくなりました  
 秋になる木の葉は変わり色きれい  
 お月見だみんなで見よう満月を  
 さつまいもおいしい味だほかほかだ  
 台風がたくさんくるぞさいあくだ

清水悠人 柴田伊織 谷紅愛 舟橋さち 舟橋ゆち 野呂明以 平泉唯翔 平山朋佳 ますお知さ 矢しま里さ 柳 怜那 やなぎさわひろよし 吉野美緒 泉関理奈 今井七愛 小野里楓 金子宗市 木下明音 黒崎新太 小出紗奈 孝治愛来 小松花杏 近藤果歩 近藤すみれ 酒井 瞭 清水 康大朗 鈴木海音 鈴木琳子

山の中赤や黄色にそまつてる  
 散りゆけば日本にわたるもみじの葉  
 お月見だ月に照らされきれいだな  
 持久走タイムをきそつて対決だ  
 まだかなあちとせあめーを食べたいな  
 お月見だワクワクするなうれしいな  
 満月を見ながらたべるどらやきを  
 十五夜だ月きれいだよ見て見てよ  
 秋晴れのすみわたる空どこまでも  
 秋の日よ紅葉目立つ赤ぎ山  
 秋が来たはだ寒い日が続く日々  
 いちようの葉寒さと共に秋化しよう  
 イチョウの葉日に日に変わるころもがえ  
 夜の道ほたるかがやく小川かな  
 風吹けば秋を感じるもみじの葉  
 肌寒い去年の長袖七分袖  
 妙義団優勝めざしてがんばろう  
 学校の象徴と言えるヒマラヤスギ  
 絶対に優勝するぞ榛名団  
 六年で最初で最後フェスティバル  
 妙義団元氣を出してガンバるぞ  
 榛名山山川全てきれいだな  
 秋になり金木屋の香りくる  
 雪がふる季節になるね楽しみだ  
 秋の風ひんやりしててきもちいな  
 運動会協力しあい頑張ろう

高澤 諒 高橋 咲貴 高橋 晴斗 田子 蒼空 恒川 瑠花 原田 壮涼 堀越 たまえ 安井 巧 内山 愛花 古川 果歩 川合 元稀 黒岩 柚希 小林 えま 大橋 麻叶 牛込 千咲姫 荒井 玲子 伊能 大智 長尾 浩志 早部 大樹 蛭谷 佳子 鈴木 愛弓 須田 悠稀 濱田 智秀 野呂 まい 堀越 紳太郎 鬼形 桜輝

【中学生の部】

つめたあい頭にキーンとかきこおり  
水しぶき色は色へと炎の日  
食べたいなふつかふつかの焼きいもを

【一般の部】

渡船場や人影もなし残暑中  
人の旅あといくばくと秋思かな  
落葉踏む音たのしみつ歩みけり  
博識の祖父や夏の野は学び場  
赤城嶺や裾野を飾る蕎麦の花  
水澄むや大利根堰に夕日落つ  
悔やむまいドツサリ火にくべうろこ雲  
職を退く友は麦酒をたかだかと  
秋夕焼竜一瞬に昇天す  
微笑みは心の鏡合歡の花  
施設より義母来るを待つボタンかな  
大根蒔く畝を連ねて待つ発芽  
帯踊るキツネは跳る夏の雲  
妻の居ぬ孤独なひと夜虎落笛  
未枯るる野辺の静かさ深め行く  
萩に風あればある亡父の木挽き唄  
渡り来てアサギマダラの夢つなぐ  
カタクリのときが伝える温りを  
湯湯婆に心癒され眠る夜  
発掘の壺の恋ひたる花野かな  
へりコプター低く障子をゆらしけり  
葉を揺する風雅な音や秋の暮

上原真優  
小池遊斗  
野本莉央  
奥利根の空の青さや蕎麦の花  
青き葉を残して銀杏散り急ぐ  
秋うららオセロゲームは手抜き無し  
色鳥の声こぼしゆく大樹かな  
秋の声たしかめたくて目をつむる  
芋の露赤城の山を映し出し  
ただ一度母よりの文秋の日に  
カンナ緋に白雲こえて逝きし人  
新涼や葉先の息を吹き返す  
うそ寒や赤城静かに引き寄せて  
金木犀香り放ちて存在感  
どこまでも雲の伸び行く秋の空  
風吹いて波つくり出す麦の秋  
つとめ終え居並ぶ魯凜として  
光陰の矢は目の前の櫓田に  
朝の精集めて光る玉の露  
朝露や太陽を浴び輝けり  
万緑の宮の静けさ手を合わす  
新樹光恵みの雨に伸び伸びと  
この甘き庭先で食べ夫婦柿  
秋の風老いの背中にそつと触れ  
菊香りあるじの柩見送れり  
きれいだねという訳でサルすべり  
別れぎわ握る手姿光るまぶた  
郷倉に映る残照秋惜しむ  
行く秋やダムに沈みし村のこと  
長き夜や夫の幼き日の話  
ラケットの影が重なる秋夕焼け

新井和夫  
佐藤正夫  
串田ハルミ  
飯島慶子  
富若旅風  
塚越郁夫  
星野芳子  
志田貴志生  
下平かつ江  
桐野梅子  
阿久津光枝  
船戸作司  
藤白雄  
見持文男  
掛川尚允  
五百部石心  
石井節子  
久保田保  
大島廣美  
工藤弘子  
深澤智栄  
佐藤ヒナ  
鈴木玲子  
掛川芳枝  
大竹淑文  
竹内紘子  
大澤萌衣  
根元武  
片山美穂子  
田中喜美子  
相澤登志子  
田部井範子  
吉田百代子  
松村寿江  
針谷菊枝  
角野一恵  
小池ちず子  
小池正  
前原ラク  
畔上初枝  
金子千代子  
小畑吉克  
今井正寿  
佐々木たえこ  
岸由美子  
松坂直人  
春山泉  
新部とし子  
笹澤はるな  
金子歩美

【小学生の部】

ブルーインパルス青空にひかるぼくのゆめ  
消しゴムをとってあげれぬディスタンス

横田大翔  
黒岩海朱

【一般の部】

あのがく長き永い日忘れない  
気に掛かる熱中症と電気代  
三密を避けて一人のモアイ像  
作りだす嘘と名家を家系図は  
真心と書いて静かにペンを置き  
夫の愚痴聞く耳もたぬ我は恐妻<sup>おに</sup>  
良く生きたもんだと義父<sup>ちち</sup>の苦笑い  
百薬に勝る曾孫らの来て遊び  
ひょうひょうと終章自分流で生き  
親父との会話の欠如悔やむ歳  
青春の欠片を抱いて生きる老い  
ブランドも霞んで見えるコロナ苛よ  
流星に声重なつて嬉しい日  
良心は誰しも胸の中にある  
時の背で見詰める先にミスめだち  
コロナ禍の会えぬ分だけつのる情  
黄昏へひと葉ひと葉も描く錦  
空想の世界を眠る孫の顔  
あの頃は夢があつたと嘆く喜寿  
坪庭にピンクピンクの酔ふよう  
三密で人間らしき失われ

新井和夫  
上村芳子  
樋熊穴六  
三木松平十八代子孫  
塚越郁夫  
中村恵奈美  
阿久津光枝  
石田孝  
田波久江  
湯本良江  
加藤オ一  
大島廣美  
金田由子  
武井愛子  
久保田保  
築瀬みちよ  
三村悦子  
梶野正二  
キートン  
山口信子  
後藤敬子

母の待つ里が恋しい道しるべ  
冠雪の浅間の雄姿富士に似て  
罪深きかな飽食の食べ残し  
知り抜いた友の助言が道標  
ブーム来て古墳の王が目覚めそう  
川柳が老いの心に朱を灯す  
居心地の良さに素直な天の邪鬼  
健康は心も豊か頑張れる  
駐車場ゆらり紫煙に影二つ  
いい月だ雲のない空選んで出  
コロナ禍で三密避けて心密  
心配の種は尽き無い人生路  
梅一輪一輪だけの春日和  
目に光るものあり送り送らるる  
いつの間に厚着している六十代  
今もなお青春浮かす広瀬川  
サツマイモ戦中食と祖母が呼ぶ  
返納も趣味を広げて歩む今  
野菜の値押し上げたのは猛暑です  
新築の家から子らの弾む声  
本で知る他人の人生引き込まれ

梶野政子  
茂木伸夫  
鈴木偉夫  
中嶋恵美子  
富田ゆう子  
小池心子  
中島通夫  
齋藤頼子  
星田田鶴子  
志岐めぐみ  
石田俊彦  
山本秀樹  
丸山ふみお  
福本富夫  
丸山美代子  
黒崎和夫  
金子歩美  
木村征美  
村上かすみ  
阿久沢悦子  
小山曜子

# ふれあい体験事業

## 連句・俳句

今年は10月31日より11月1日の2日間、俳句作品展の中で一緒に開催することになりました。

初めての試みで心配致しましたが、思ったよりも賑やかに真剣に取り組んで戴きました。

### 連句

笠着俳諧として、通りすがりの参加者に自由に着けて戴く前句付けを開催致しました。参加者は50名を超え面白い付句が集まりました。前句がありその句から発想する句を7・7の14文字で着けるので、様々な句が出来上がりました。

### 俳句

は新鮮な光景でした。作品は纏めて各グループに発送致しました。

新部とし子

俳句は希望者に指導しながらの作品作りを行いました。当然、経験者もありましたが、それでもそれなりに真剣に作句している様子がうかがえました。何の題材もないところから集まった句数は30句を超えました。それぞれに苦吟する姿が真剣そのものでした。作品集に纏めたいと思っております。

俳句人口の底辺拡大とその面白さを広めてゆくための一歩でした。

工藤 弘子



## 令和3年度ふれあい体験教室開催予定

「ふれあい体験事業」は、子どもたちをはじめ幅広い世代の市民が、前橋市文化協会で行う文化活動のよさにふれるとともに、本市で育まれた文化を継承することを目的に、平成13年から毎年開催されているものです。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していたほとんどの教室が中止となっていました。令和3年度は、感染対策を講じながら、以下の教室を開催する予定です。詳しい日程等については、当協会ホームページまたは広報まえばしをご覧ください。(中止や変更となる場合があります。)

### ◎小中学生対象の教室

「クラシックバレエ教室」・「日本舞踊教室」

### ◎小学生以上対象の教室

「いけばな教室」・「お箏教室」・「詩吟教室」・「大正琴教室」・「八木節教室」

### ◎大人対象の教室

「居合道教室」・「漢詩教室」・「剣舞教室」・「俳句教室」

# 部会・支部 だより

## 書道

第55回前橋市民展を迎えるべく令和2年、前橋市展会幹事・運営委員会が6月19日（金）2時から中央公民館ホールで会議が開かれました。

すでに新型コロナの感染拡大を生活様式に示されて「3密」を防ぐための対策が必要ということで、この会議も人数を制限しての会議方式で行われました。会議では第54回の実績報告が行われ、第55回展の運営についてと方向性などの議題となりました。

すでに54回展も新型コロナ

の感染拡大を防ぐ対策が取られ、3月5日の受賞、祝賀会とも自粛となり書道の展示作業もマスクをし、手袋着用で、大声などは出さないよう配慮し展示が出来ました。

第54回展での多くの行事が中止されて終了したことなどを鑑み、第55回展は中止という提案が出されましたが、反対の案も出され、中止案と継続案が出されて意見が分かれました。しかし、55回という記念展なので、記念展らしく実施したいということから、中止の

案で決まりました。

書道部会でも、それぞれの各会で例年開催してきた社中展等も中止の処置を取らなくてはならない状況が続いている現状です。

自粛の生活が続きますが会員それぞれのご健康を心からお祈りいたします。

大井美津江

## 美術

令和2年度的美術部会の活動を報告します。主な活動として令和2年11月6日（金）～11月8日（日）に昌賢学園まえばしホール



（前橋市民文化会館）大展示ホールにおいて「仏像彫刻と絵画展」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、例年出品していた「大胡陶芸倶楽部」は、出品しませんでした。そのため、「もくめの会」の仏像彫刻と新しく入会した「群馬美術家連盟」の絵画を展示しました。会期中は感染対策を徹底させ、安全に十分注意し無事展覧会を開催することができました。展覧会は、「もくめの会」の重厚にして繊細な仏像彫刻の逸品の数々と群馬美術家連盟会員の大作から小品までの秀逸な絵画作品を多数展示することができました。来場してくださった鑑賞者も多く、密を避けながらゆっくりと作品を堪能してくださいました。今回初めて入会した「群馬美術家連盟」について紹介させていただきます。群馬美術家連盟は、昭和26年（1951年）に結成された群馬県



の美術団体です。毎年6月に「連盟展」として、公募展覧会を開催しています。令和2年も第68回連盟展を昌賢学園まえばしホールにて開催する予定でしたが、コロナウイルスの影響で中止と致しました。連盟展の内容は、日本画部、洋画部、建築部、ジュニア部の4部門で構成されています。ジュニア部では、幼児から高校生までを対象に絵画作品等（建築を含む）を募集しています。現在、県内で幼児から小中学生・高校生を対象とした美術作品コン

クールを実施している美術団体は、連盟展ジュニア部だけです。現在会員、準会員、会友が、約140名程度いて、作品制作に取り組んでいます。今回の入会を機に、前橋市の文化活動にも参加できることを願っております。

真下 道明

## 写真

第42回前橋市民芸術文化祭 前橋地域文化フェスティバル（総合文化祭）が、令和2年2月1日（土）～2月2日（日）の2日間開催され、展示部門に5団体（全日写真Do!支部・Ⅲ紀会写真クラブ・城南写真クラブ・下川淵フォトクラブ・元気写真クラブ）の参加協力の下、昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館大展示ホール）に30点余りの作品を展示しました。風景・ネイチャー・人物・スナップ等様々なジャンルが



飾られ、見応えのある内容でした。毎年何度も鑑覧に来て下さる方も居られて展示をする励みになっています。第54回前橋市民展覧会写真部門は、令和2年3月5日（木）～3月8日（日）までの4日間、昌賢まえばしホールで開催されました。

市民展賞・市長賞・市教育長賞・NHK前橋放送局長賞・東京新聞賞・優作賞奨励賞・臨江賞・無監査推挙等写真部会構成団体から多数受賞する事ができ、誠に喜ばしい限りであります。

緊急事態宣言後、写真部会を構成している7団体は

## 映像

前野 芳江

独自で開催していた写真展や撮影会等を中止したり、かなり縮小した形で活動を継続している状態である。新型コロナウイルス収束後は「令和3年度前橋文化協会創立40周年記念のつどい」に、写真部会一丸となって精進し邁進していきたいと考えている。

終息見えぬコロナ禍「用心に怪我なし」の諺如く。月例会、撮影会、研修会、発表会、表彰式、県外クラブの発表&交流会総て中止。「撮る・見る・作る」楽しみが激減。特に月例会休会は会員各位の仕掛中映像作品の試写&視聴後の意見交換できず。環境整備として素材映像仕分作業傍ら、前橋ビデオ研究会のホームページ刷新。会員各位の制作済み映像作品をYouTubeへ投稿、併せて全員



個々のCHANNELを開設結果、月例会再開後はWiFi利用でPCからプロジェクト経由で大型スクリーン投射、密にならぬよう開催。不参加者は自宅PCからYouTubeで視聴後、メールで意見交換を始める。今後ZOOMアプリによるオンライン会議を考えている。今年は地域行政主導型の映像コンテストが多い。群馬県主催のFINDGUNMA動画部門（見つけて、教えて、ぐんまの魅力）・群馬県自作視聴覚ビデオコンクール（生

## 茶道

佐藤 利一

涯学習に活用できる視聴覚教育教材映像・群馬県移住促進動画（朝の習慣動画）・渋川市主催のPR動画（あなたが伝えたい渋川の映像）・兵庫県丹波篠山市（コロナ時代を生きる）の公募に、「おや・まあ・なるほど」を作品に盛り込み、クオリティー高めた映像作品を応募していく。映像は沢山のメッセージを瞬時に伝えるメディアとして人気が高い。

私たち茶道では、茶会の心得を和敬清寂とよく言います。これは亭主とお客が互いの心を和らげ謹み敬い、茶室の備品や茶会を清浄にし、茶道を楽しむ心得としてあります。このようなことから現在の新型コロナウイルス感染症状況を受け、茶会を楽しむ様になる迄、茶道部会は対外的な活動を令

和2・3年度の間、自粛することとなりましたので、本来のイベント等をご案内致します。

当会は、江戸千家・表千家流・裏千家・大日本茶道学会・煎茶道東阿部流・小堀遠州流・藪ノ内流・煎茶道清風流・茶庵流の9流派で活動しております。

この主なものとしては、多くの市民の方々と共に催す「前橋市民芸術文化祭」参加の臨江閣及び日本庭園和室に於ける春の大茶会や「まえばし和の文化の集い」

参加の臨江閣での秋の茶席。そして毎月、定例の中央公



民館で開かれ多くの方に親しまれている「市民の茶席」。また、茶道の「ふれあい体験教室」を年1回、休日

休日に小中学生対象で催しております。この他、秋に多くの県民の皆様と「群馬県民芸術文化祭」参加の群馬県茶道会大茶会を、県内各地の茶道家と高等学校茶道部の学生と共に催しております。また、初夏に群馬県茶道会青年部の若茶茶会に参加する等、伝統芸能の継承に努めております。

関口 宗壽

## 華 道

前橋いけばな作家協会は昭和23年に発足し、去年(平成31年)に70周年をむかえる事が出来ました。記念作品集も刊行されました。現在では13流派が親睦と技術向上を目的として、華道展の開催や前橋市の行事への参加に協力し、華道のすばらしさを広めるべく努力



しています。

今年は新型コロナウイルスの影響で華道展や和の文化の集い、いけばなふれあい体験教室等の行事の中止が相次ぎ、残念な思いをしています。7月5日予定

だった定期総会も、書面にての議決となりました。

来年度の行事は令和3年4月24日(土)、25日(日)に市民芸術文化祭華道展を昌賢学園まえばしホール(市民文化会館)にて予定しています。又、一年を通して各流派交代で前橋駅構内にていけ花を飾っています。駅員さんにお声をかけ

て頂きますとごらんになります。ぜひ多くの方に力作を見て頂きたいと思います。

「コロナ」の収束も先の見えない状態ですが、こんな時こそ美しい「お花」に向き合い、心癒されたいですね。それぞれに個性ある木々や花々を観察し、特徴を見つけ引き出す、どんな取り合わせにしたら効果的なのか、華道の技術をみがかくと共に感性を働かせ植物に取り組んでゆけたら、と思っています。

中森 暁月

## 音 楽

令和2年の新年を迎えた時には、此の年もこれ迄と同じ様に自由に芸術文化を楽しめる日々を過ごせると思っておりますが、新型コロナウイルス感染症により、想像だになかった年となってしまいました。

音楽部会は「前橋市民音楽連盟」に加盟している団

体で組織され、「市民音楽のつどい」を「前橋市民芸術文化祭」の一環として開催しております。



市民音楽連盟では春の「市民音楽祭」を主催しており、合唱や器楽の団体が日頃の活動の成果を発表すると共に、前橋出身の将来を嘱望されている新進の演奏家を招き「フレッシュコンサート」を開いております。秋の「前橋市民芸術文化祭」市民音楽のつどいに於いては、昨年は初の試みとして、各団体の演奏の後、出演者や来場の一般の

方々全員で一つの曲を歌い上げるという「ワークシヨップ」も開き、会場が一つとなり素晴らしい合唱を体感できました。近年は一般の方々の来場も増え、市民の皆様にも親しんで戴ける音楽祭となってきたと実感し、関係者一同手ごたえを感じておりました。

コロナ禍の影響で現在は音楽活動は不自由な状況が続いておりますが、コロナ禍が一日も早く好転し、又、演奏者や来場者の皆様と音楽を楽しめる場を持てる様になることを祈るばかりです。

佐藤三恵子

## バレエ

当り前と思っていた日常生活がひっくり返ってしまつた2020年は、特に芸術文化の分野には居場所のない存在となつてしまつた気持ちにさせられたようでした。



ることです。ので感染予防に努めて心を強く、今度こそとの期待と希望を持って2021年度の取り組みに向つていきます。

文化協会の皆様と共に、ため込んだエネルギーを放出できるような年にしてまいりたいと思います。これからの活動

発表会

金井憲子バレエアーツ

10月1日

白鳩バレエ

10月10日

室賀バレエスクール

5月16日

YUKIバレエ

8月22日

氏家モダンダンス

未定

室賀 孝子

## 邦楽

邦楽部会は、謡曲（宝生）・箏曲14（生田流9・山田流5）・尺八5・長唄4・琵琶（薩摩）の計25社中244名の会員数です。

5月の「邦楽のつどい」、11月の「温故和楽会」での



成果発表を目標に会員一同日々精進しております。

初回の発表は昭和53年。56年から「邦楽のつどい」となり、義太夫、俗曲・新内小唄、謡曲も複数社中ありました。

さて、近年少子高齢化により「芸の継承」が難しい時代になってきたところに、今年のコロナ禍。「生の空気感を共有」しながら「対面口伝」するという、邦楽の伝統的指導が困難な状況になっていきます。

早く治まり、大切な次世代への伝承を進める「ふれあい体験事業」等が引き続き

き継承されることを願います。

令和3年度の「邦楽のつどい」は、5月15日（土）、昌賢学園まえばしホール。『まえばし和の文化のつどい』は、10月30日（土）、臨江閣にて開催が予定されています。

大勢の皆様と邦楽を楽しめますように！

及川 清流

## 大正琴

前橋文化協会主催の令和2年第8回ふれあい体験事業は6月7日（日）から9月12日（土）までの8回講習で実施される予定でしたが今年是世界中の人々が恐怖におちいつている新型コロナウイルス感染拡大防止のため計画されていたイベントや各種行事がほとんど中止となり実行できないまま過ぎて来しました。大正琴も「和の文化のつどい」や楽しみにしていた「子供芸

能座」の発表会も残念ながら中止となりました。9月に入ってからようやく月2回の練習が出るようになり練習の際には手指の消毒、マスクの着用等徹底した注意をしています。過去にも現在のように世界中にコレラ、ペストなどの疫病が流行したとき熊本の海に出現したと言つ伝承のある妖怪で、人魚のような外見で口ばしのあるのが特徴の「アマビエ」を描いた絵を川に流布すると疫病が収まったと言う伝説から新型コロナウイルスが拡大する今全国的に人気になり、4月に緊急事態宣言が出さ

れると厚生労働省は「アマビエ」をSNSで啓発キャラクターに起用して、外出自粛を呼びかけ「アマビエ」で新型コロナウイルスを退散させようと盛上っています。1日でも早く新型コロナウイルスのワクチンが開発されコロナが終息し又以前のように賑やかに芸能発表が出来ますよう願っています。

岩井田みき子

## 日本舞踊

今年は日本舞踊部会もコロナ禍により例年の事業は開催することができませんでした。

文化協会創立より参加しています日本舞踊は約40年、毎年秋には「日本舞踊のつどい」をみんなで協力して開催してきました。

「ふれあい教室」も初回は日本舞踊だけの参加でした。当時の会長さんが子供たちと一緒に踊っていたことも思い出です。2



〇20年に国民文化祭が群馬県で開催され日本舞踊は

前橋市の担当でした。その後伝統文化は幼いときから身近にあることが大切という認識で始まったのが子供さん対象の「ふれあい教室」でした。そこで学んだ子供たちの発表の場でもある「まえばし子ども芸能座」も始まり、いずれも欠かさず参加してきました。

また、臨江閣の建物の価値を文化協会でも再認識する活動を始め、今の姿になったことも感慨深いことです。文化財指定の都合で舞台は変わりましたが、その最後

と柿落とし（初演）に踊らせていただきました。毎年そこで開催される「和のつどい」にも参加してきました。いずれも今年は中止になりましたが、糸の街で栄えた前橋の文化を忍び、自然災害や戦争の災禍を経てなお現在に生きる伝統文化をこれからも繋いでいきたいと思っています。

若柳 吉駒

## 吟剣詩舞道

いつ終息するのか全く見当が付かない新型コロナウイルス感染症状況が続いておりますが、その影響で、私たちの年間行事として吟剣詩舞道の発表会を春と秋に開催していましたが、今年度は、残念ですが中止と言う結果となりました。

ここで吟剣詩舞道とは、どう言う事を行って居るのかを少々記してみたいと思います。先づ吟について古今の和漢のすぐれた詩歌に

節調（節まわし）を付けそれを詠う。剣詩舞に付いては、詩歌の内容を熟知しそれに応じた振り付けをして吟詠と共に舞うことが基となっておりま。吟詠、剣舞、詩舞は、我が国の独自の高雅な芸道です。

市芸祭吟剣詩舞道部会は群馬吟道会、心彰流愛吟詩道会、岳心流上毛岳心会、心彰流詩舞扇彰会、翠扇流翠扇会、祥刀流祥煌館、心彰流剣舞剣彰会、至心流剣詩舞前橋支部の8団体で構成されています。団体ごとに特色があり、特に幼年、



少年、青年の演舞には、目を見張るものがあります。

我々、至心流剣詩舞前橋支部は、4月に緊急事態宣言で稽古は中止していましたが、解除後、6月からマスクを付け、少しずつですが稽古を再開しております。このコロナの試練を乗り越え通常の暮らしが出来る社会になった際には、また皆様にご披露できる日を楽しみにしております。

高橋 清幸

## 民謡民舞

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、様々な行事が中止、または延期となった。

特に大きな影響を受けたのは東京オリンピックである。待ち望んでいた日本でのオリンピックの開催。その開催に向けて、様々な準備が急ピッチで進められていた矢先の延期。

明るい希望に雲がかかり



先の見えない不安が世の中をつつんでいる。

民謡民舞会における行事も例外ではなく、令和2年度の前橋芸術文化発表会は中止になってしまった。

楽しみにしていた参加者の気持ちを考えると、とても残念なことである。

しかし、民謡は本来生活に密着したものであり、先の見えない不安な気持ちを和らげてくれるものである。こんな時こそ民謡とふれあい、民謡を口ずさみ、この苦難を乗り越えていきたいと思う。

そのためには、今まで以上に新型コロナウイルス感染症防止対策を万全にし、健康を守っていかねばならない。

不自由な生活は続いているけれど、必ず平穏な日常は戻ってくると信じている。今までと同じことはできないが、今できることを工夫し、日々の生活の中に楽しみを見つけていきたい。

そして、令和3年度の行事が開催されることを強く願っている。

鈴木二千六

## 八木節

富士見八木節愛好会の活動

旧富士見村の八木節が好きで好きでたまらない人々が、平成元年に16団体で八木節連盟を立ち上げました。

活動は中央から講師を招いてお囃子や踊りの専門講習や、年1度の全体発表会を毎年開催して来ました。また、いつでも出演できる専



門部を設置して県内外のイベントにも参加して来ました。

ところが、どの加入団体も会員の高齢化や若者の確保が困難となり解散に追い込まれ、今では1・2の組織のみとなっています。八木節連盟も自然消滅の形となり、平成元年からは専門部の25名程で「富士見八木節愛好会」として活動を継続しています。

近年では県内の各種イベントにも呼ばれるようになり、群馬県観光キャラバン隊参加や、全国アマチュア女子ゴルフ大会や、東京都

内の祭りにも招待されるようになりました。

最近では解散した市内の八木節グループの受入れもあり、より幅広い内容で練習しています。練習は毎月2回の例会と、更に高度の技を目指す会員は、市の八木節協会の月2回の例会にも参加して技術向上を目指しています。これからも八木節を趣味として又、施設激励訪問やイベント参加等で若い仲間を増やしながら活動を続けて行きたいと思えます。現在も新規会員募集中です。興味のある方、八木節と一緒に習いませんか。

狩野 透

## 郷土芸能

例年11月に、昌賢学園まえばしホールにて開催されている前橋市郷土芸能大会は新型コロナウイルス感染症防止のため今年度は中止となりました。開催を楽しみにしていたお客様も数多

くいらつしやつたのですが、会員やそのご家族の健康を守るために練習に集まる事すらできず、やむを得ない措置でありました。

さて、この大会を主催する前橋市郷土芸能連絡協議会は、前橋市内の伝統ある郷土芸能を発掘・保存・伝承し、広く市民に伝え、市民文化の振興を図ることを目的として昭和55年2月に発足しました。今年で40年目を迎えました。

この協議会は、芸能ごとに「神楽」「獅子舞」「お囃子」「古謡」「語物等」5つの部門で構成されており



ます。現在、それらに属している保存会の数は49団体です。各団体が受け継ぐ技能は地域に伝わる祭礼と共に、時代に則しながら現在に伝えられています。この伝統を引き続き次世代に伝えていくことが一番大切なことと考えます。

令和3年度の活動方針について、現段階では未定です。少しずつ活動を再開する団体も見られますが、コロナ禍が終息して通常どおりの活動が再開されること、人々が平穏な日々を送れることを願うばかりです。長谷川潤一（前橋市郷土芸能連絡協議会事務局）

## 歴史

部会は現在前橋市内で歴史・文化財を学習している団体で、その内訳は・あずま歴史散歩の会・総社歴史勉強会・南橋歴史友の会・荒砥史談会・富士見郷土研究会・群馬歴史散歩の会総



社支部の6学習団体が前橋市歴史・文化財学習連絡協議会を組織し、この団体名で前橋市文化協会に加入しており、この団体の他に加入団体がありませんので、この状態で歴史部会として活動しております。

歴史部会の主たる行事は前橋市民芸術文化祭の一環として、前橋市文化協会主催で前橋市民を対象とした歴史講座を開催しています。が、今年度においては新型コロナウイルスの感染拡大防止により開催できませんでした。例年は著名な歴史

家の先生に講師をお願いして開催し、多数の市民の方々が参加・拝聴され、大変喜ばれ好評です。

このほかの活動としては、年度2回春期・秋期において前橋市歴史・文化財連絡協議会主催による現地研修会を開催し、各会の活動内容向上のためと団体相互の情報交換を行うのにあわせ、会員個人の知識の向上に努めております。

各会においては、各地域の特徴を踏まえた学習を開催し、地域に合わせた文化活動を行い、地域の歴史・文化の学習、文化財の掘起しや、文化財の保護につとめ、地域発展に寄与しております。

吉澤 信明

## 短歌

今年は新型コロナウイルス感染防止の自粛のため、前橋歌人クラブの活動は全て中止になった。例年は活動報



告の形だったが、今回は短歌部会の活動の中の2つについて紹介する。

### ○市民短歌大会

54回の歴史を持つ大会で、毎年6月の第2日曜日に、前橋市中央公民館で開催している。あらかじめ参加希望者が投稿した短歌を一覧にした詠草集をもとに、参加者が好きな歌を投票して順位を決める。その上位の作品を講師と参加者で合評し合う形式で進行する。市長賞や文化協会長賞など5人に賞状と記念品、10位まで賞品を用意する。結

社を越えた交流ができ、勉強になり楽しかったとの声も聞かれた。

かつては100人を越える参加者があったが、短歌人口の減少により、昨年度の出詠者は49人だった。

## ○短歌・俳句・川柳合同作品展

前橋市民芸術文化祭の発足と同時に企画された催しで、期日は固定されていないが11月の土・日曜日、昌賢学園まえばしホール大展示ホールで開催している。3部会合同の作品展は他市には無く、珍しいだけでなく地域文化の交流からも素晴らしいと好評を得ている。

この両方の催し物は、新しい方の参加を待ちしていますので、是非参加して楽しさを味わってみて下さい。

平山 勇

## 俳句

第40回前橋市民俳句大会



を6月28日に開催の予定で進めておりましたが、大会は中止、一般公募だけということになりました。それでも130人の応募がありいつもの通りの審査を行い、各賞の受賞者を決定致しました。しかし、表彰式もありませんでした。

第4回まえばし小中学生俳句大会を開催。3997通の応募がありました。今回は開催も危ぶまれておりましたが学校からの要望と主催者側の諦めきれない気持ちが一緒になり15日遅れのスタートでしたが、前記

の通り驚くほどの応募がありました。選考委員による点数制の審査方法により小学生、中学生とも最優秀賞各1人、優秀賞各2人、佳作各10名の入賞が決定しました。入賞作品集を製作し、入賞者と、各学校に配布しました。

第43回前橋市民芸術文化祭俳句作品展が10月31日（土）から11月1日（日）まで昌賢学園まえばしホール大展示ホールにおいて開催されました。今回は俳句部会単独での開催ということになりました。会場では並行してふれあい体験講座の俳句実作と連句前句付けが賑やかに行われました。俳句作品の中には市民俳句大会入賞作品と第4回まえばし小中学生俳句大会出の入賞者の作品を展示しました。入賞作品を前にしてご家族で嬉しそうにご覧になっておりました。会場の広さから展示も心細くなる

と心配しておりましたが、連句の作品も併せて展示したため、丁度上手いバランスで展示することが出来ました。

岡庭 浩子

## 川柳

前橋の地に、川柳と云う文芸が花開くようご尽力いただいたのは市教育委員会におられた酒井正保氏です。「市民だれもが参加出来る川柳会を作つて欲しい」との氏の要望に答え、**昭和55年春**、田中寿々夢代表率いる前橋川柳会が誕生した。

そして、多くの出会いと別れを経て、**令和2年40周年**を迎える事が出来た。40年間の歴史は、会員の川柳会にかける情熱と川柳を愛する心の賜の他ならない。さて、発足当時から継承された一つに「柳誌は会員の手による」がある。

月刊誌の1号から262

号までは、故阿久沢廉治氏による孔版という印刷方法で刊行された。また合同句集として創立5周年記念句集「つみき」に始まり、100号200号そして、20周年記念合同句集、平成2年から13年までの間「平成柳多留」10篇は、阿久沢氏の並々ならぬ苦勞と川柳に対する情熱により刊行された。

平成14年263号からはパソコンの力を借りながらも、本作りは全て手作業であり、令和2年12月をもって通巻487号となった。なお、平成22年には30周年



記念合同句集を上梓。

今はコロナ禍において、月例会も他県からの柳人を交えて開かれる前橋川柳大会も中止となったが、柳誌への投句を通じ、柳人達と心の交流を図りながら飽くなき人間探究を続けている。

三村 悦子

## 漢 詩

昨今、文化活動のみならず多分野にわたりコロナ禍の影響に私達は困惑させられております。漢詩研究会でも令和2年度の漢詩学習



会の発表会が中止となり残念でした。それに代わって出来るものはないだろうか。

偶々、漢詩学習会の同志に、月夜野大峰山嶽林寺住職鈴木渕州氏がおられましたので、寺境内での吟行会を企画、予定されていた11月26日漢詩発表会同日に行うことができました。その寺は風光明媚な所であり、南東前方に裏赤城、東には三峰山、眼下には上毛高原駅裏手には大峰山、その麓にあります。荘厳な堂宇を拝観し座禅の体験まで心清めての詩作、とても有意義な時間を費すことができました。漢詩研究会では小井土松風、芳泉先生御夫妻が講師を務めていただいておりますので、懇切丁寧な指導が受けられます。漢詩には、現代用語では表現できない妙味あるものがあります。是非、皆様方を風雅な世界に引き込みたいと思います。

小暮 心明

## 演 劇

いつもの年であれば、12月の市民芸術文化祭演劇公演に向けて、最後の追い込みに入っている時である。

ところが、今年は、コロナの影響で市民芸術文化祭の中止が決定し、3月から練習会場の閉鎖、再開後も、大声を出さない。一定の距離を保つ、向かいあわない、マスク着用の徹底等、演劇を再開するには、厳しい条件で、いまだに練習すらできていない。

ここに来て、世界的な感染者数の増加、収まる気配



さえない。この状態でいくと来年もどうなることか…。

日常生活の激変により、自らの時間は増え、ゆつたりとした時が流れるようになり、そんな生活に、すっかり慣れてくると、観客動員のために走りまわる、あの目のまわるような忙しさと、何もかも後まわしにしての演劇中心の生活に戻るのか心配になって来る。

はやく、安全なワクチンができ、今までのような日常生活が取り戻せる日が来ることを願っている。

来年の「比刀祢」には、公演の報告が書けるとよいのだが…。

小井戸恵子

## 自然趣味

自然趣味部会の盆栽展は10月23日から25日まで、今年も会員が丹精し愛培してきた25席の展示により昌賢学園まえばし文化ホールで開催しました。



今年の展示会は新型コロナウイルスの感染拡大により多くの行事・展示会等が中止せざるを得ない状況での開催となりました。このため、開催にあたり感染防止対策に万全を期すため、文化協会事務局及び市民文化会館の指導・助言をいただき受付時の体温測定、3密回避のため、展示スペースも例年より幅広くとり実施しました。この方法は今後の展示会の開催に生かされると思っています。

さて、これまで経験したことのない状況での展示会

となりましたが、その展示された盆栽は、会員が手塩をかけて育てた逸品が揃いました。特に「すみ」や「檜」「レケヤキ」などあまり目にしない樹種や、「皐月」「五葉松」「真柏」等の銘木が揃い鑑賞されました皆様には好評をいただきました。

昨年『比刀祢』に記載いたしました。盆栽趣味者の高齢化は避けがたい状況にあります。なかなか新たな愛好家が育っていませんが、盆栽の良さを少しでも知っていただくために、他団体の展示会等での例えば「床の間飾り」などで協力をしていければと考えています。要望等があれば連絡をいただければ幸いです。今後ともよろしく願います。

久保寺健夫

## 民族舞踊

平成21年に、文化協会の会員として承任して頂き入

会しました。最初は8グループで、フラとフォーク

ダンスが一諸の部会でした。

翌年からフラ&フォークダンスフェスティバルとして、舞台発表に参加しました。初めての発表会は、事前の流れが分からず大変でした。特にプログラムの作成です。しかし、役員の方々と及び関係者の方達の協力を頂き、無事に第1回の舞台が終了した時は、役目を果たせてホッとした気持ちでいっぱいでした。その後、第4回で、フォークダンスのグループが脱会して、第5回から、フラフェスティバルとなり、今は13グループと会員も増えて、大人数の部会になりました。

私達も入会してから、10年以上経ち、会員も年齢を重ねてきましたが、フラの愛好家の集りですから、笑顔で意欲的に活動しています。しかし、令和2年に入り、思いもよらない、コロ

ナウイルスが流行し、日常生活が自粛の為、行動範囲が規制されてしまい、催し物も、全て中止となり気持ちも落ち込みがちになりましたが、令和3年は、又通常の生活が戻って、仲間の人達と楽しく、フラフェスティバルの舞台が開催される様、早くコロナウイルスが、終息する事を願っています。終りに、何気ない、日常生活が過ごせる事は、大変素晴らしい事に気付かされた次第です。

吉野 美子



## 居合道

古来伝承の武術『一刀で相手(敵)を制す』それが居合です。

今から4百数十年前(永禄年間) 山形県村山市で「林崎甚助源重信公」と言う武将が鍛錬を重ね編み出した「兵法」。その兵法は脈々と全国各流派に受け継がれ現在に至っております。

居合はもともと剣の技である。武技の修行ではあるが「形より心に入り技に依りて心を養う」こと、正しき刀法と身体の運用を心がけ「心剣一如動静一貫」の妙を悟ることであると説かれている。

その極意は「常に鞘の中に勝ちを含み刀を抜かずして天地万物と和する」ところにある。つまり《刀は何時でも抜くことは出来るが、抜かずしてその場に勝ちを収める》ことが最上の策にあると説く。

現代における修行の目的においても「定められたる武技を通じて剛健な身体を錬磨し、己が精神の錬磨をなす」ことにある。これが居合道である。

コロナ禍において全ての分野に制約がある中ではあります。一人でも多く「居合」について感心を持っていたければ幸いです。今回の「部会だより」は居合についての紹介とさせていただきます。

「正しき刀法を習得し心の錬磨を成す居合」続けて生きたい。

吉田 努



## 将棋

将棋部会としての活動ですが、今年度は当初より「コロナウィルス」の影響で全く活動ができませんでした。

おそらく多くの部会の皆様も枕詞のように「今年はコロナ禍云々」と報告されているのではないかと推察いたします。

とは言え、将棋部会も7月頃より活動を再開し始めました。子供たちを迎えるにあたり感染症対策として体温の測定・手指のアルコール消毒・室内の換気などに留意して恐る恐る再開したことを覚えています。

再開当初、子供たちの笑顔に救われたこと「待ち遠しかった」と言われて活動を再開して良かったと思つたものです。

実際4〜5ヶ月の休止期間でしたが、再開すべきか否か本当に判断に迷いました。



添付している画像は今年度のもではありませんが、早くこのように人々が集いイベントなどが出来るようになる事を願っております。この時もたくさんの子供たちがステージに集まり登壇して面白可笑しくひとときを過ごしました。

コロナ禍において将棋部会に頼もしいお仲間も増えました。来年度に希望を持ち感染症対策には充分留意しながら活動を続けて行きたいと考えております。

皆様におかれましても、どうぞお身体ご自愛下さい。

石原 隆行

## 日本の名曲を踊る

私達は今年の3月から5月の間活動を休止しました。6月からはおそろのおそろ日本舞踊の稽古を始めましたが、今では以前の様に戻りました。さぞかし体力が落ちて筋肉痛を訴える方がいるのではないかと思います。無用でした。1週間に3日の練習のたまものでしょうか。

日本舞踊には2人以上の組み踊りがあり、立役（男性）と女役であったり、同性役のものもあります。相手になる人と気持をあわ



せ楽しく踊れます。又、人数が多い程難しいですがやり遂げた後の充実感や爽快感は格別です。もちろん1人踊りもあります。1人ではと臆する事はありません。練習の回数をふやしていただけるまでフォローするのがこの部会の特徴です。

当協会の総合文化祭で「まぶたの母」「おんなむすめ女無法松」、施設からの依頼で「河内おとこ節」「古城」等、敬老会では「皆の衆」「佐渡情話」、まえばし和の文化の集いで「茶切り節」「いい湯だな」等々日本の名曲として残しておきたい歌を踊っています。いつでもどこへでも出演できる様、練習はかせません。体を動かす事は楽しいです。仲間がいてこそかもしれません。ご覧いただくお客様の心に響く踊りを心がけていきたいです。令和3年は明るい年になりますように。

須藤三枝子

## 大胡支部

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の情勢を見ながら一つ一つの事業について、会場の広さと入場可能人数、換気などを考慮し、実施できるか否かを検討してきました。結果としては、多くの制限の中で、すべての事業について実施不可能という結論に至り、中止を決定いたしました。

大胡支部は、多くの所属団体を抱えておりますが、各団体ともそれぞれの活動を通じて、会員一人一人が



心豊かで生き甲斐と潤いのある人生を送っております。文化祭などの大胡支部としての事業では、他の所属団体との交流や切磋琢磨を通して、日々の取組の大切さを痛感するとともに、これらの活動が「生きる喜び」に繋がることを実感しております。

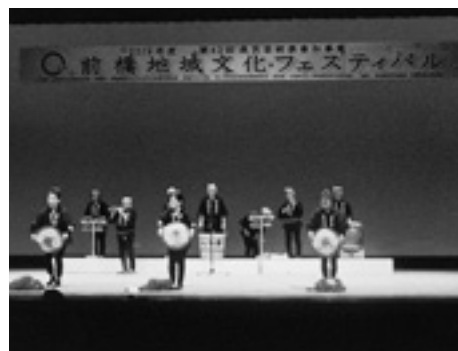
これまで、当たり前だと思っていたことが当たり前でなくなり、先の見えない不安の中に置かれている現状です。思うような活動ができず耐え忍ぶ今、改めて仲間の大切さやこれまでの日常がいかに幸せであったかを思い知りました。

このような状況の中ですが、皆で知恵を絞り出し、よりよい活動を工夫していきたいと思えます。

阿部 淑美

## 粕川支部

田面八木節保存会は、平



成13年7月18日に発足し、来年で20年目を迎えます。

八木節の初舞台は、地元の敬老会でした。発足から8か月後、平成14年3月24日に百名を超える皆さんの前で、盛大に八木節のお披露目ができました。

八木節練習は、毎週月曜日の19時30分から初代会長の松村宅の物置小屋を改修した八木節練習場で行います。なんと、数名の会員が

数日で仕上げるという、職人集団もいる心強い団体です。現在の会員数は14人（男性6人・女性8人）で、高齢化による会員の減少が

課題となっております。

主な活動では、前橋市文化協会に加入、前橋八木節協会に属し、八木節のつどいや総合文化祭への出演を始め、粕川まつり、産業文化祭、敬老会、老人ホームや介護施設等への慰問及び地元神社の夏祭りにも毎年参加し、会員一同楽しみながら田面八木節保存会の発表の場を広げております。

60代から80代までの会員は、皆それぞれに興味を持ち、多方面で活躍されている人々の集まりでもあります。今年度はコロナウイルスの影響で、練習再開も10月から始まったばかりです。来年は発足20周年を祝い、さらに会員の団結と増員を図りながら継続、発展につなげていきたい。

【継続は力なり】関口 昭

## 富士見支部

コロナ感染対応中における

る富士見町文化協会の活動

について報告したいと思います。今年2月にクルーズ船より発症した新型コロナウイルスによる騒動は、当初これ程、大騒ぎになるとは、思ってもいなかったのも本音であります。以来コロナ騒動については毎日の報道に随うとして、富士見町文化協会の文化活動の取り組みについて報告いたします。まず秋に開催される予定の総合文化祭が中止されました。発表された際の各専門部では、それなりの残念!!の思いが、又、諦め感が胸中に広がった事も事実であります。文化協会の文化活動は、富士見村以来の伝統と長い歴史にある17団体28支部のグループが年間事業計画にしたがって、月割りで文化協会のロビーを開放して、ロビー展を催し日常の勉強の成果を披露し1ヶ月間の展示を行っています。この専門部の活動

もコロナ騒動が広がると同時に「3密」の関係と、やや過剰とも思える警戒感によって、中止や取り止めする事態となりました。「巣ごもり」や「人ごもり」とのことで、文化活動の出来ない昨今、「絵」や「書道」の本来の勉強と同時に、会員同志の近況報告や世間話しの効果の欠如の方がコロナ騒動の一面で、そこに人と人がいて、話し合う事の無い文化活動は全くの閉塞感が身に纏わりついている今日の状態で、早く健康で明るい日を祈っています。

増村 友美



# 令和2年度役員等名簿

名誉会長 山本 龍 (市長)

会 長 清水 和夫

副 会 長 阿部 淑美 江原満里子 及川 清流 白石 博已  
田中寿々夢 原 與志美

書 記 井野 誠一 荻野 昇 武藤 心鴛 室賀 孝子

会 計 猪熊佳奈子 西川扇富珠 増村 友美

監 事 鈴木二千六 吉澤 信明

常任理事 大井美津江 (書道) 郷緒 慶三 (美術) 前野 芳江 (写真)  
佐藤 利一 (映像) 高橋 宗美 (茶道) 田村 理光 (華道)  
石原いく代 (音楽) 齋藤 直美 (バレエ) 須藤 幸子 (邦楽)  
岩井田みき子 (大正琴) 若柳 吉駒 (日本舞踊) 瀬間 踪心 (吟剣詩舞道)  
伊藤 養吉 (民謡民舞) 阿佐美菊男 (八木節) 谷 晃仁 (郷土芸能)  
中川 春雄 (歴史) 平山 勇 (短歌) 今井 妙 (俳句)  
三村 悦子 (川柳) 片倉 優水 (漢詩) 小井戸恵子 (演劇)  
久保寺健夫 (自然趣味) 吉野 美子 (民族舞踊) 吉田 努 (居合道)  
石原 隆行 (将棋) 若柳吉駒枝 (日本の名曲を踊る) 伊藤ツヤ子 (大胡支部)  
松村喜美子 (粕川支部) 石関 雅幸 (富士見支部) 間庭 淳 (公益財団法人前橋市まちづくり公社)  
田中 力 (前橋市)

理 事 下谷 洋子 (書道) 山口 幹雄 (美術) 寺澤 昌佑 (写真)  
宇多川 紘 (映像) 長谷川翔雪 (茶道) 宇田理由美 (華道)  
飯塚 幸生 (音楽) 氏家 由佳 (バレエ) 福島 常童 (邦楽)  
安斎紀代子 (大正琴) 若柳 茂駒 (日本舞踊) 高山 龍聖 (吟剣詩舞道)  
石倉 節子 (民謡民舞) 中島 俊明 (八木節) 富澤 好克 (郷土芸能)  
石田 和男 (歴史) 岡田 正子 (短歌) 工藤 弘子 (俳句)  
勢藤 潤 (川柳) 小暮 心明 (漢詩) 日田 一郎 (演劇)  
小金澤健次 (自然趣味) 新井扶美子 (民族舞踊) 山本 明夫 (居合道)  
齋藤 要治 (将棋) 若柳菊三枝 (日本の名曲を踊る) 小野 桂一 (大胡支部)  
大澤 敏子 (粕川支部) 小林 淳美 (富士見支部) 福田 修 (公益財団法人前橋市まちづくり公社)  
大友 貴裕 (前橋市)

顧問 曾我 孝之 (前橋商工会議所会頭)

中島 實 (副市長)

塩崎 政江 (前教育長)

吉川真由美 (教育長)

深井 彰彦 (株式会社群馬銀行代表取締役頭取) 江原 洋 (株式会社東和銀行代表取締役頭取)

内山 充 (株式会社上毛新聞社代表取締役社長) 武井 和夫 (群馬テレビ株式会社代表取締役社長)

塚越 正弘 (株式会社エフエム群馬代表取締役社長) 須田 浩充 (公益社団法人前橋市医師会会長)

石原秀一郎 (一般社団法人前橋市歯科医師会会長) 大塚 隆夫 (J A 前橋市代表理事組合長)

阿久澤和夫 (前橋ユネスコ協会会長)

参 与 中島 克人 (前橋商工会議所専務理事)

石川 靖 (前橋商工会議所情報メディア部会長)

川端 利保 (前橋市文化スポーツ観光部長)

事 務 局 田中 力 (前橋市文化国際課長)

大友 貴裕 (前橋市文化国際課副参事兼文化振興係長)

萩原 忍 (前橋市文化国際課文化振興係副主幹) 齋木 雄造 (事務局長)

阿佐美和香子 (事務局員) 松本 彩子 (事務局員)

## 令和2年度賛助会員名簿 (50音順)

| 法人・企業等          | 代 表   | 法人・企業等              | 代 表   |
|-----------------|-------|---------------------|-------|
| 赤城フーズ株式会社       | 遠山 昌子 | 株式会社東和銀行            | 江原 洋  |
| 朝日印刷工業株式会社      | 石川 靖  | 株式会社登利平             | 丸山 勝弘 |
| 一線美術両毛支部        | 高橋留三郎 | なかざと歯科医院            | 中里 隆之 |
| 株式会社オオタヤ        | 都丸 和俊 | 日本ピアノホールディング株式会社    | 中森 隆利 |
| カネコ種苗株式会社       | 金子 昌彦 | 株式会社ノブプランニング        | 町田 栄信 |
| 関東精機株式会社        | 鮎澤 剛史 | バンクリエイティブセンター       | 伴場 孝憲 |
| 株式会社群馬銀行        | 深井 彰彦 | 星野総合商事株式会社          | 星野 大輔 |
| 有限会社群馬通信機サービス   | 新井 紘子 | 公益社団法人前橋市医師会        | 須田 浩充 |
| 群馬トヨペット株式会社     | 大山 駿作 | 公益財団法人前橋観光コンベンション協会 | 曾我 孝之 |
| ケービックス株式会社      | 井上 哲孝 | 一般社団法人前橋市歯科医師会      | 石原秀一郎 |
| 清水 農 園          | 清水 和夫 | 公益財団法人前橋市まちづくり公社    | 静 知明  |
| 下田内科医院          | 下田 隆也 | 前橋商工会議所             | 曾我 孝之 |
| 学校法人昌賢学園        | 鈴木 利定 | 松本印刷工業株式会社          | 松本 徹  |
| 株式会社上毛新聞社       | 内山 充  | モリタ印刷工業株式会社         | 堤 真志  |
| 上毛電業株式会社        | 狩野 明  | 株式会社ヤマト             | 町田 豊  |
| 昭和造園土木株式会社      | 石橋 修一 | 株式会社ユニバースサイン        | 伊藤 佳明 |
| 株式会社ジンスホールディングス | 田中 仁  | 医療法人吉野医院            | 吉野 昭男 |
| 青 南 社           | 金子 侑司 | 若 宮 内 科             | 山田 邦子 |
| 高木左官店           | 高木 勝夫 |                     | (敬称略) |

### 賛助会員・HPバナー広告を募集しています

本協会事務局へお電話、FAX、メールによりお問い合わせください。

〒371-0805 前橋市南町三丁目62-1 昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）内

電話 027-289-6521 FAX 027-289-6531

ホームページ内の「お問合せフォーム」(<https://maebunka-k.jp/>)

E-mail [maebunka@maebunka-k.jp](mailto:maebunka@maebunka-k.jp)



# 令和3年度 第44回前橋市民芸術文化祭開催予定一覧

| No.      | 事業名(部門)                             | 期 日                                                | 時 間                                      | 会 場                   |
|----------|-------------------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------|
| 1        | 華道展                                 | 4月24日(土)～<br>4月25日(日)                              | 10:00～                                   | 昌賢学園まえばしホール<br>大展示ホール |
| 2        | 前橋川柳大会                              | 6月上旬                                               | 誌上大会                                     |                       |
| 3        | 歴史講演会                               | 6月5日(土)                                            | 13:30～                                   | 第三コミュニティセンターホール       |
| 4        | 市民短歌大会                              | 6月20日(日)                                           | 13:30～                                   | 中央公民館501・502学習室       |
| 5        | ビデオ作品発表会                            | 6月27日(日)                                           | 13:30～                                   | 群馬会館ホール               |
| 6        | 市民俳句大会                              | 6月27日(日)                                           | 13:30～                                   | 中央公民館ホール              |
| 7        | 民謡民舞発表会                             | 7月4日(日)                                            | 9:40～                                    | 昌賢学園まえばしホール<br>大ホール   |
| 8        | 市民音楽のつどい                            | 9月5日(日)                                            | 13:00～                                   | 昌賢学園まえばしホール<br>大ホール   |
| 9        | 八木節のつどい                             | 9月12日(日)                                           | 10:00～                                   | 昌賢学園まえばしホール<br>大ホール   |
| 10       | 吟剣詩舞道発表会                            | 10月10日(日)                                          | 13:00～                                   | 大胡シャンテ マルエホール         |
| 11       | 日本舞踊のつどい                            | 10月24日(日)                                          | 13:00～                                   | 昌賢学園まえばしホール<br>小ホール   |
| 12       | 自然趣味盆栽展                             | 10月29日(金)～<br>10月31日(日)                            | 9:00～                                    | 昌賢学園まえばしホール<br>大展示ホール |
| 13       | 陶芸・仏像彫刻・絵画展                         | 11月5日(金)～<br>11月7日(日)                              | 9:00～                                    | 昌賢学園まえばしホール<br>大展示ホール |
| 14       | 短歌・俳句・川柳合同作品展                       | 11月20日(土)～<br>11月21日(日)                            | 9:00～                                    | 昌賢学園まえばしホール<br>大展示ホール |
| 15       | 前橋洋舞フェスティバル                         | 11月21日(日)                                          | 13:30～                                   | 昌賢学園まえばしホール<br>大ホール   |
| 16       | 漢詩発表会                               | 11月28日(日)                                          | 13:00～                                   | 第三コミュニティセンターホール       |
| 17       | フラ フェスティバル                          | 12月5日(日)                                           | 12:30～                                   | 昌賢学園まえばしホール<br>小ホール   |
| 18       | 演劇発表会                               | 12月19日(日)                                          | ①12:30～<br>②16:30～                       | 昌賢学園まえばしホール<br>小ホール   |
| 19       | 創立40周年記念のつどい                        | 令和4年1月29日(土)<br>30日(日)                             | 昌賢学園まえばしホール                              |                       |
| 20       | 市民展覧会 ※1<br>(美術)(写真)(書道)            | 令和4年2月～3月                                          | 未定                                       |                       |
| 21<br>※2 | ・大胡地区文化祭<br>・粕川地区産業文化祭<br>・富士見地区文化祭 | 10月22日(金)～11月6日(土)<br>11月7日(日)<br>11月12日(金)～23日(火) | 大胡体育館・大胡シャンテ マルエホール 他<br>粕川小学校<br>富士見公民館 |                       |

\* 上記日程は令和3年3月1日現在のものです。都合により、日程や開演時間等が変更または中止になる場合があります。  
(※1 前橋市教育委員会共催事業 ※2 各地区実行委員会主催事業)

# 前橋市文化協会創立40周年記念のつどい

## ～今こそつなぎ広げ深めよう 前橋文化の輪!～

令和4年1月29日（土）・30日（日）

**展示部門** 昌賢学園まえばしホール 大・小展示ホール

**舞台部門** 昌賢学園まえばしホール 大ホール

### 《特別出演》

萩原朔美氏・高橋在也氏・高橋弘志氏・前橋マンドリン楽団

第1部 高橋元吉の詩 語りとピアノ演奏

第2部 「ゴンドラ洋楽会」再現演奏会

第3部 高橋元吉と萩原朔太郎、親交100年、曾孫と孫による対談

※日程等が変更になる場合があります。

## お知らせ

このたび下記の方々が栄誉を受けました。ここに紹介しお祝い申し上げます。今後、益々のご活躍を祈念いたします。（敬称略）

### ※群馬県文化奨励賞

室賀 孝子（バレエ部会）  
町田 光男（八木節部会）  
藤生 武男（写真部会）

### ※前橋市教育文化功労者表彰

岩井田みき子（大正琴部会）  
白石 博己（富士見支部）

### ※前橋市社会教育活動功労者表彰

瀬間 踪心（吟剣詩舞部会）

## 新入会員紹介 ～令和2年度加入～

### 柏川支部

悠会 代表者 真下 正一（R2.4～）  
かすかわ歌吟倶楽部 代表者 白石 高士（R2.4～）

### 美術部会

群馬美術家連盟 代表者 真下 道明（R2.8～）

### 事務局だより

「令和2年度第55回前橋市民展覧会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりました。「入賞者一覧」及び「市民展覧作品」の掲載はありません。

### 編集後記

今年度は新型コロナウイルスの蔓延により、大幅な活動制限がありました。「和の文化の集い」は全て中止となり、「市民芸術文化祭」と「ふれあい体験事業」についてもいくつかの活動を除き、殆どの行事が中止を余儀なくされました。コロナ禍の終息により、かけがえない日常が戻りますよう祈るばかりです。

工藤 弘子

会報（比刀祢）編集委員  
委員長 田中寿々夢  
副委員長 今井 妙  
委員 三村悦子 工藤弘子

## 比刀祢

（67号）

令和3年3月5日 印刷  
令和3年3月15日 発行  
発行 前橋市文化協会  
編集 会報（比刀祢）編集委員会  
前橋市南町3-62-1  
（昌賢学園まえばしホール内）  
電話027-289-6521  
印刷 朝日印刷工業株式会社

# 通帳レスをはじめよう！ ぐんぎんWEB口座

「ぐんぎんWEB口座」は、紙の通帳を発行しない

個人のお客さま向け預金口座です。

紙の通帳を発行しない代わりに、

《GBダイレクト》インターネットバンキング等を

利用して、残高や入出金明細を

ご確認ください。



通帳の  
記帳や繰越が  
不要！



紛失・盗難の  
心配なし！



環境に  
やさしい！

詳しくは  
こちらから



お問い合わせ  
群馬銀行  
ダイレクトセンター



**0120-13-9138**

受付時間 9:00～20:00(土・日・祝休日、12/31～1/3を除く)



あなたの夢、応援します

群馬銀行

(2021年3月1日現在)